

1 有識者インタビュー

将来像を検討するにあたり、経済社会の動向などについての現状認識や将来の見通しを確認するため、学識経験者や経済界の方などを中心にご意見を伺いました。

今後、必要になると思われる都市の機能や、日本やアジアの中で福岡が担うべき役割、福岡の持っている潜在的な可能性など、各方面で活躍している方々ならではの説得力のあるご指摘を福岡市の未来を考えるための視点・論点として頂きました。

- めざす都市像について
- 新たなモデルをつくる試みについて
- 都市がつけるべき付加価値について
- 女性の活躍や子どもの健やかな成長のための仕組みについて
- 人材の教育・育成について
- 超高齢化社会に向けたビジネスや仕組みについて
- 市民参加の仕掛けについて
- まちに必要な機能とマネジメントについて
- 交通ネットワークの改善について
- 歴史や文化の活用、発信について
- エンターテインメントや食文化の活用について
- 観光に関する多言語表記やマーケティングについて
- 観光の活性化について
- 第一次産業の展開について
- 高いレベルの国際化について
- 外国語教育とインターナショナルスクールの充実について
- 留学生・海外人材の活用について
- 企業やビジネスのアジア進出について
- アジアとの交流や近接性を活かした役割について
- つながりが強い韓国と中国との関係について
- 港湾機能の強化とウォーターフロントの活用について
- 空港の機能の強化について
- 成長する産業や技術分野と強化の仕組みについて
- 起業やベンチャーの支援について
- 戦略的な企業誘致について
- 大学の持つ機能や資源の活用について
- 産学官民連携での取り組みについて
- 九州全体といった、より広域的な視点について
- 高い意識を持った柔軟な行政運営について

(1) 分野別

めざす都市像について

「よそ者・若者・ばか者」といった異端を受け入れ「異」ノベーションを生む、世界一オープンな都市を目指してはどうか。【鍋山徹氏】

多様な人々をひきつけるインテリジェンスのある街を目指してはどうか。【ニック・サーズ氏】

札幌市や仙台市が既に標榜しているような「コンパクトシティ化」を掲げてはどうか。【藻谷浩介氏】

他都市とは違った「生活分野のデザイン」を志向したらどうか。【橋爪紳也氏】

「建物全てを屋上緑化にし、上空から見ると一面緑の森林都市にする、そして福岡市内で二酸化炭素を吸収してしまう」というコンセプトを打ち出してはどうか。【山崎朗氏】

ハードだけでなくハードの不整合を解消するためのソフト面での努力、お互いがお互いのことを思いやり支えあうみんなが優しい、世界で一番幸せなまちを目指してほしい。【定村俊満氏】

「UD(ユニバーサルデザイン)が遅れている福岡は、25年後に日本で一番進んでいるまちになってほしい。【関根千佳氏】

日本のために福岡ができることを考えて、日本のために頑張る都市を目指してはどうか。【伊藤敬生氏】

定住人口、滞在人口、回遊人口が集まるような「ハブシティ」になってほしい。【長尾亜夫氏】

「可処分時間」が多い福岡市の魅力を評価、強化して欲しい。【出口敦氏】

屋台、新天町商店街、都市高速など「粋な福岡スタイルの独創」をもってまちづくりに取り組むべき。【出口敦氏】

標準化の時代からいち早く脱出して、差別化、個性化を図ってほしい。【古川治次氏】

「女性が日本で一番生き生きと活躍する都市」を目指してほしい。【村山由香里氏】

本人が満足できる生活ができる世の中、生活の多様性を提示できる社会になればいい。【まつもとゆきひろ氏】

人々の幸せと都市の問題、文化と都市の問題を含め、世界の頭脳が結集するところになるのはどうでしょうか。【長谷川裕一氏】

新たなモデルをつくる試みについて

アイランドシティを完璧な共生モデル地区にしたらどうか。【星野裕志氏】

ホームレスが多い状況を劇的に改善したモデル都市を目指してはどうか。【星野裕志氏】

「アジア都市のモデルになる」努力をもっとしてはどうか。【西村幸夫氏】

人口100万～200万規模の都市で「ここが参考になる」というモデルを作り、他国の20～30年後の目標になってはどうか。【西村幸夫氏】

人々のサイクルに合わせ、大きな世代交代の流れと局所的なマネジメントをうまくマッチングさせた観光ビジネスモデルを作ってはどうか。【森地茂氏】

今後急増する海外の100万人都市に対して、人口増と並行して3C(コンパクト、コンビニエント、クリーン)と整った交通体系を保つ「福岡モデル」をPRしてはどうか。【野田順康氏】

専門家と市民の「協働」、中国や韓国など世界中の人と「創発」が醸成されていくといい。福岡が専門家の知識や経験に「市民知」が上手く融合したモデルとなってはどうか。【田上健一氏】

福岡市は未来社会を受け入れ、新しい社会実験をどんどん受け入れる実験の場になってはどうか。【安浦寛人氏】

インフラ輸出は有益である。【松尾新吾氏】

都心がエンジンとして、アイランドシティと九大学研都市がチャレンジできる実験都市としての両翼として、都市戦略を推進してほしい。【出口敦氏】

アイランドシティには新しいコンセプトの遊戯施設やテーマパークのような集客力のある施設等をつくってはどうか。【古川治次氏】

●都市がつけるべき付加価値について

自然資本を生かし、付加価値にしたビジネスを生み出してはどうか。(例えば、日本の農産品、住宅)

【武内和彦氏】

地方に付加価値の高い産業(例えば一次産業)を育て、分散した地域圏をつくってはどうか。【中垣量文氏】

モノと情報通信技術の組み合わせが経済を動かし、付加価値で収益を上げる構造に変わってきた。【安浦寛人氏】

都市も「ハブ・アンド・スポーク」におけるハブ機能を担うため、文化、芸術、人、モノ、カネ、情報を集め、それを加工したり、取捨選択したり、付加価値をつけるべき。【長尾亜夫氏】

感性に訴える目に見えない価値を作るサービス・イノベーションを重視してはどうか。【鍋山徹氏】

日本ならではの組織的なチームプレーによる完成度の高いサービスモデルは、世界に対して新しい「価値」として発信できるのではないか。【川原洋氏】

地域のユニークな伝統を産業と活力に繋げていくことは、どのまちでも大事だと私は考えています。

【有馬裕之氏】

都市の快適さが、日本や福岡が世界に対し提供していく価値になると考えます。ただし、快適とは何かは、あくまでも市民が決めることです。【宮本雄二氏】

●女性の活躍や子どもの健やかな成長のための仕組みについて

子作り減税や、働く女性が2人目、3人目の子供を持てるようなインフラ整備が必要ではないか。

【上野泰也氏】

「女性をひきつける都市」を戦略として磨いていってはどうか。優秀な男性が東京へ出ていかに福岡に住みたい、福岡に戻って来たい、と思わせる仕掛けができないか。【村山由香里氏】

大学と一緒に優秀な女性を社会で生かすための取り組みができないか。【村山由香里氏】

女性の管理職比率、取締役比率の目標値を立ててはどうか。【村山由香里氏】

安心して出産・育児できる状況を作り出してはどうか。【上野泰也氏】

就業機会の少なさは問題。若者と出産・育児後の女性の就職先の創出が重要ではないか。【藻谷浩介氏】

福岡市は九州内でも最低の出生率であるから、福岡市自らが「子育てしやすいまち」というビジョンを具体的に示してはどうか。【藻谷浩介氏】

高学歴就業者のWLB(ワーク・ライフ・バランス)が進み、結婚や出産・育児がキャリア上ハンデにならない、と認識してもらえる制度を整えるべき。【関幸子氏】

男性の育児休業取得率100%を目指すべき。【村山由香里氏】

女性が出産などで一度職場を離れると再就職が難しい現状を変えられないか。【村山由香里氏】

家事サービスをもう少し安い金額で頼めるような仕組みを作れないか。【村山由香里氏】

保育園の整備だけでなく、高齢者が生き甲斐として子どもと触れ、面倒をみるような仕組みを作れないか。【村山由香里氏】

子供を持つ家族を市全体が支援するような体制作りが必要ではないか。【藻谷浩介氏】

●人材の教育・育成について

- データの加工・分析ニーズに対応できる高度な人材輩出機能を担ってはどうか。【小林修氏】
- ITではない「ソフト」産業に欠かせない博士課程を含む高度人材育成教育を実施してはどうか。【小林修氏】
- 地場産業との相乗的な活性化につながる高度人材の育成をしてはどうか。【小林修氏】
- PC一台あれば分析・評価を行える高度人材を戦略的に育成してはどうか。【小林修氏】
- 「人材のサプライチェーン」に関する情報を共有していく役割を担ってはどうか。【小林修氏】
- 外部の人材を活用し、人材の厚みを増して持続可能な成長を考えてはどうか。【細川昌彦氏】
- 福岡には知的人材をひきつける潜在力があり、それを表に引きだし、情報発信してはどうか。【新海征治氏】
- 上の層から産業や研究開発などを考えられる人材を育ててはどうか。【安浦寛人氏】
- 付加価値の高い産業や、人材の育成に投資すべき。【川原洋氏】
- 九州に就職して頑張りたいと思わせるような魅力ある企業や産業が育ち、優秀な人材を確保して育成しなければならぬ。【河部浩幸氏】
- 「九州・アジア経営塾」のような地域の人材をみんなで育成する取組みは強み。【長尾亜夫氏】
- 大学のような教育機関でも、学生に歴史、世界の流れ、法体系から科学技術まで上から下まで全ての階層を一通り勉強させるべき。【安浦寛人氏】
- 変化の中で強く生きていく教育・訓練、健康的なハングリー精神を身につけるような教育をしてはどうか。【ロバート・ファン氏】
- アジア太平洋子ども会議などを利用して、グローバルシチズンの育成をしてはどうか。【麻生泰氏】
- 九州域内の大学ネットワークを形成し、「現場力」を磨く教育をさせてはどうか。【家田仁氏】
- 私は人間力を高める文化こそが、地域に関係なく対等に勝負できる強みになるのではないかと考えています。【長谷川裕一氏】
- 一番基本的な人間観についての教育を徹底することが重要だと思います。【長谷川裕一氏】
- 九州に英語力、デザイン力、科学技術など様々な能力を育て、世界中の知識を集めてはどうか。【長谷川裕一氏】
- デザイン力をビジネスに結びつけ、多彩で多才な博多人の育成と、それをビジネスにつなげ、蓄積を都市観光につなげていくマネジメントをもっとはどうか。【出口教氏】
- 厳しい場面でも事実や状況を“見える化”し、顧客を納得させる現場の説明能力を上げなければならない。【古川治次氏】



● 超高齢化社会に向けたビジネスや仕組みについて

高齢者がいきいきと暮らせるコミュニティ再建と医療や介護サービスの供給量を、コストを増やさないように工夫しつつ増やすべき。【藻谷浩介氏】

日本より遅れて人口構造の変化(少子高齢化)が起こる東アジアに対して、注目を集める例となっただろうか。【小川全夫氏】

高齢者や市民全体に対し、ビジネス面や公共的な対応策をきちんと講じられている都市であることを示してはどうか。【小川全夫氏】

高齢者はもちろん、市民も交流人口も楽しく満足できるような都市をコンセプトにしてはどうか。【小川全夫氏】

高齢化対応を新たなビジネスチャンスにしていったり、生産性の向上を進めたり、海外移転可能なビジネスモデルを作ったり、市民も一緒になってビジネスを成り立たせてはどうか。【小川全夫氏】

ICカードを利用して高齢者の行動分析を行うなどして、高齢者の就業機会、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなど新しい就業の形態を考え出してはどうか。【小川全夫氏】

介護保険事業などで得られた有用なデータをデータベース化し、研究機能を備え、アジア全体を見通したアジアエイジングのプラットフォームになってはどうか。【小川全夫氏】

高齢社会への取組みをアジアに向けて見せている福岡は、そうした経験を欲するアジア諸国のハブになり得るのではないか。【関根千佳氏】

65歳以上の健康な高齢者がポジティブに働けるようにすべき。【武内和彦氏】

知的な高齢者や年齢と関係なく一生懸命に生きようとする高齢者の活躍の場が必要ではないか。【新海征治氏】

高齢化については住居のシェアリングをしてはどうか。【安浦寛人氏】

高齢者が年金等だけに依存せず、自己参加や役立ちによる収入財源を持つような生活、社会システムを構築してはどうか。【麻生泰氏】

農業、林業、水産業は高齢者が活躍できる場になるのではないか。【麻生泰氏】

● 市民参加の仕掛けについて

よりよいまちづくりは、行政だけでなく市民がどれだけ入り込むかにかかっている。【定村俊満氏】

市民の中から何か新しいものが沸き立つ仕掛けと、それを実行するスピード感も重要ではないか。【橋爪紳也氏】

市民の手作りで、そのまちオリジナルの新たな現代の祭りを作っていくことでシビックプライドを高めてはどうか。【橋爪紳也氏】

時間の余裕がある都市や自然の豊かな都市はより選択されやすい。福岡にはそのポテンシャルがあるのではないか。【西村幸夫氏】

文化に理解を示す市民や組織から、資金やボランティアなどのサポートを引き出すことがポイントではないか。【垣内恵美子氏】

市民の参加を促し、その地域の個性が平準化して丸くならないように「アーバン・ビレッジ」(都市の中の村)をつくってはどうか。【田上健一氏】

「市民参加型のマーケットの仕掛け」:柳橋連合市場や鮮魚市場といった都市内の市場を市民の日常生活にもっと近づけ、都市観光として活用したり、市内の公園や広場、オープンスペースを市民参加型のマルシェとして活用してはどうか。【出口敦氏】

福岡のことは市民が責任を持って決める、活気に満ちた地域主権を確立させてはどうか。【岡野博一氏】

市民の意識を高めるため、「福岡県」を「博多府」にしてはどうか。【岡野博一氏】

新しいもの好きの福岡市民には何かリアルにもものを見せて、目にしやすくすれば理解も得やすいのでは。【松下美紀氏】

● まちに必要な機能とマネジメントについて

都市計画をきちんと運用して、マンションのすぐ横にマンションが建つようなことを止めさせてはどうか。【藻谷浩介氏】

「再開発の再開発」にはこれまでのようにスクラップ・アンド・ビルドだけでなく、既存のストックをうまく利活用する方法論と実践が求められる。(例えばパリ、ニューヨーク)【橋爪紳也氏】

既存のストックをシェアできるようにメンテナンスし、各世帯の人口変動に合わせて住空間を変えることが可能な仕組みを導入してはどうか。市や政府が土地を徐々に買い上げていく仕組みもあってはどうか。【安浦寛人氏】

公的な住宅政策が不十分で、パブリックスペースなど共有の場の作り方をもっと政策的にリード(プロパティマネジメント)すべき。【田上健一氏】

都市計画は住居、商業、工業地域をそれぞれ青、赤、黄色で「塗り分け」るのではなく、どう「混ぜ合わせ」て綺麗な色で描くか考えるべき。【田上健一氏】

一定のルールをつくって地区ごとに建物の高さや用途を限定したり、容積率の下限を設けるなど、都心の土地利用効率、機能を高めてはどうか。【長尾亜夫氏】

地域のまちづくり活動や団体間の連携活動を支援するアーバンデザインセンターを設定してはどうか。【出口敦氏】

海外から福岡を訪れる人に対するユニバーサルデザインが必要ではないか。【定村俊満氏】

都心の回遊性を高めるため、歩道を整備し、バリアフリー化を進め、自転車に占拠された歩道は歩行者に返すべき。【長尾亜夫氏】

具体的なまちのイメージなど、地域独自の面白さ、楽しさをつくるのが重要です。【有馬裕之氏】

パーキング・パーミット(佐賀)、変わるタイミングや待ち時間を視覚的に表示してくれる信号機(熊本、徳島)など、九州内の各自自治体の取組みを知り、市民目線でまちづくりをしてはどうか。【関根千佳氏】

私は、「違いをいかに打ち出すかが、今後のまちづくりだ」と言っています。【宮本雄二氏】

博多、天神といった大きな括りではなく、春吉、今泉、大名などそれぞれの街の個性を分かりやすくプロデュースしてはどうか。【ニック・サーズ氏】

福岡でも都市全体の、場所ごとの位置付けをもっと差別化して、しっかりした機能を作り込むことが必要だと思います。【日野晃博氏】

● 交通ネットワークの改善について

明治通りは回遊性のある歩けるスケール感を持った都市の背骨であるから、通り沿いの建物も含めた空間全体、都市に貢献する方策を考えてはどうか。【西村幸夫氏】

明治通りと大博通りが作る南北軸を復活させてはどうか。【西村幸夫氏】

海外からの長期滞在や居住をクリアできるような交通、買い物、医療といった基盤の整備をしてはどうか。【上野泰也氏】

シティマラソン福岡のコースは、走って楽しい、眺めのいい場所にしてはどうか。【ニック・サーズ氏】

九大の伊都キャンパス周辺に人口を集積させ、LRT(軌道交通)を設置してはどうか。【有川節夫氏】

鉄道路線の縮小放置など、公共交通の細りが都心への来街者減や地盤沈下につながっているのではないか。この機にきちんと総括し、反省すべきではないか。【藻谷浩介氏】

ベイサイドへの交通アクセスの改善は喫緊の課題。【河部浩幸氏】

西区の筑肥線を福岡市営にしたり、西九州自動車道の西区の区域内を都市高速の扱いにするなど西区住民に対するサービスを考えてはどうか。【有川節夫氏】

公共交通で都心にアクセスする環境を整えるべきだ。【長尾亜夫氏】

「モビリティの環をつなぐこと」:都心部に連結バスのBRTを走らせたり、外環状線や都市高速上に連結バスを走らせるなど、定時性とキャパシティ向上を兼ね備えた新たな公共交通を研究・実験し、整備してはどうか。【出口敦氏】

住まいや交通のメリットをきちんと情報発信すべき。【松下美紀氏】

レンタサイクル、ペロタクシーの配備、タクシーやバス、LRT(軌道交通)を活用、充実させては。【長尾亜夫氏】

インフラ整備など都市の骨格をどう活用していくか、使いこなしていくかを考えながらまちづくりに取り組むべき。【出口敦氏】

●歴史や文化の活用、発信について

観光に連れて行ける場所がなかなかないので、もっと歴史的・文化的価値が高い資源を利用して、PRすればどうか。【G.W.バークレー氏】

歴史、文化に関わる観光資源を掘り起こし、PRしてはどうか。【河部浩幸氏】

博多座や九州国立博物館など文化の高さをまちの魅力としてPRしてはどうか。【吉元利夫氏】

福岡の「まちの歴史を感じる日」を設けてはどうか。【大塚ムネト氏】

市民会館の立て替えに際し、福岡の歴史アーカイブのようなものができないか。【大塚ムネト氏】

歴史や文明遺産を使った観光にもっと力をいれてはどうか。【ロバート・ファン氏】

「ストックの活用」：歴史的建造物、寺社仏閣、町屋、近代建築などを都市観光に活用すべき。税控除や助成などで形成・維持支援にも取り組むべき。【出口敦氏】

文化施設などのストックを「市民の幸せや楽しみにどう繋げるか」の観点で活用してはどうか。【垣内恵美子氏】

食文化やデザインなど「なんとなくセンスがいい」DNAを上手くビジネスに活かしてはどうか。【馬場貞仁氏】

九州やアジア各地から表現者達を集め、福岡、韓国、中国の海に面する都市を船でつなぐようなアジア文化的な仕掛けができないか。【大塚ムネト氏】

「文化経済大国」を狙うべく、伝統文化に裏づけされたブランドの存在を認識すべき。【岡野博一氏】

地元の歴史、伝統、文化などのコンテンツを現代風に再編集してアピールしてはどうか。【岡野博一氏】

地元コンテンツを創り、文化発信力を高めてはどうか。【藻谷浩介氏】

「アジアの文化を学ぶのであれば福岡で」となるような情報発信をすればどうか。【岡野博一氏】

文化度の高い「花街」という視点で、中洲エリアを再編成してはどうか。【岡野博一氏】

アジアの芸術家育成。芸術や文化の学術センター、大学をつくってはどうか。【岡野博一氏】

街の人が普通に歴史を語り、文化人が集い、ネットからリアルへの様々なコミュニティが街の活気を作る都市になってほしい。【村山由香里氏】

コンサートや美術展など、人が集い生の体験ができる場を提供するハブは必要。【まつもとゆきひろ氏】

●エンターテインメントや食文化の活用について

数日から一週間滞在できるエンターテインメントがたくさんあるようにしてはどうか。【橋爪紳也氏】

「エンターテインメント(みんなで盛り上がり同じ気持ちになるためのもの)」を前面に出すまちになってはどうか。【伊藤敬生氏】

歩行者天国と同時にオープンカフェも開催してはどうか。【ニック・サーズ氏】

オープンカフェのような「開放都市」のイメージを体験できる、知る人ぞ知る特別な場所を作ってはどうか。【小林修氏】

大型レストランではなく、小さなお店がたくさん並ぶようなストリート文化を伸ばしてはどうか。【出口敦氏】

秋葉原のようにコンテンツビジネスを軸とし、マニアックな心を爆発させることができたり、共通の趣味を持つ仲間とそこに行けば会えたりするような場所があるといいな、とは思っています。【日野晃博氏】

食を活かした特徴ある観光立市を目指すべき。【古川治次氏】

●観光に関する多言語表記やマーケティングについて

- 国内だけでなく、多言語でもっと多くのPR活動をしてはどうか。【小林修氏】
- 公共施設だけでなく民間施設にも誘導するサインマップや、ガイドブックを充実させては。【長尾亜夫氏】
- 4カ国語表記の看板などからもう一步踏み込んだ観点からのインフラ整備が必要ではないか。【上野泰也氏】
- シンガポールや香港のように質の高い英語を使ったPRが必要ではないか。【ニック・サーズ氏】
- 海外観光客はバンコクぐらいまでをターゲットに集客マーケティングをしてはどうか。【野田順康氏】
- ヨーロッパにあるような情報提供のキオスクを明治通りや渡辺通りに設置してはどうか。【ニック・サーズ氏】
- 日本の道路には名前がついていないので、海外からの観光客が分かるような工夫が必要では。【長尾亜夫氏】

●観光の活性化について

- 身銭を切る形で航空券の購入補助をしたり、空港で金券を配ったりと、何らかの優遇やおまけをしても人を呼んではどうか。【上野泰也氏】
- 日本の車を買いたいと言う海外客には、直接九州で販売できる仕組みを整えてはどうか。【馬場貞仁氏】
- 福岡・九州への海外リピーター客を増やすように、また中国人に商品を買ってもらうよう知恵を絞ったり、博多の禅寺をめぐる観光コースを作ってはどうか。【馬場貞仁氏】
- ソウルのような(胸に星条旗や日の丸のバッジを付けたボランティアが、困っていそうな外国人をサポートすること)をしてはどうか。【野田順康氏】
- 工場見学など海外の方にも人気があるコンテンツを絡めて、姉妹都市と相互に観光・おもてなしに取り組んでみてはどうか。【馬場貞仁氏】
- ホスピタリティをもって海辺を綺麗に変えていくべき。【松下美紀氏】
- 遊休資産を活用した観光スポットを創り出し、農村と都市の調和する地域づくりをしてはどうか。【小川全夫氏】
- 旧時代的な歓楽街がある中洲は、女性や子どもでも親しめるような整備をしてはどうか。【ロバート・ファン氏】
- コンベンションや国際会議などMICEを増やしたり、滞在型観光を受け入れる都市にしてどうか。【橋爪紳也氏】
- 優位性を持つ空港と新幹線駅の近接性を活かした観光に注力すべきでは。【古川治次氏】
- (京都のように)観光客が来れば来るほどまちが良くなっていくような整備を進めてはどうか。【橋爪紳也氏】
- 山口あたりから博多を中心に熊本、鹿児島で少なくとも2箇所周遊できるように売り込んでどうか。【古川治次氏】
- 長崎のように退職者を活用した観光客案内ボランティアなどを参考にどうか。【河部浩幸氏】
- 福岡に滞在することで安心を与えるような九州観光のハブ機能を備えた快適性を追求すべき。【松尾新吾氏】
- パブリックスペースを上手く活用したイベントをしてはどうか。【ニック・サーズ氏】
- 福岡を拠点として九州各地を巡る観光ルートを確立してはどうか。【河部浩幸氏】
- ベンチやポケットパークを適度に配置したり、オープンカフェを許可して増やしたり、花や緑のアレンジを工夫したり、歴史・文化を知りながらまちを歩けるようにしたり、ビル1階のディスプレイなどで面白い仕掛けが連続する働きかけはどうか。【長尾亜夫氏】

● 第一次産業の展開について

農家と消費者を直接つなげ地産地消を広域で実施してはどうか。【森地茂氏】

国際地域ベンチマーク協議会で繋がっているような海外都市との間で、農業技術の交流、農家の交流、物々交換のような農産品の交流事業を実施してはどうか。【藤野直人氏】

九州の農産物(マル福ブランド)がアジア市場で認知されるような仕組みを確立してはどうか。【松尾新吾氏】

一次産業は安全で美味しい食を地産地消でまかなえるような産業に発展させて、九州各地の農漁業地域で生活が成り立つ制度を作って運用してはどうか。【河部浩幸氏】

食に関する分野は「安心・安全」のキーワードで素材品質を高めるとともに、素材を加工して付加価値の高い商品を生産し、アジア・世界へ輸出してはどうか。【中垣量文氏】

● 高いレベルの国際化について

市民レベルでの「内なる国際化」を意識的に進め、福岡でしっかり買い物をしてもらう仕掛けが必要ではないか。【星野裕志氏】

長期滞在者が増えるような交流を増やしたり、引き続き国際会議などのイベントを数多く開催してはどうか。【有川節夫氏】

外国人が大学の学部生の時期から日本語で勉強することが普通になって、卒業生が日本に残って、日本社会の中で高いレベルの外国人が活躍するという国際化が必要。【武内和彦氏】

事情があり留学などができない学生や、学生の国際交流をサポートする具体的な取組みをしてはどうか。【G.W.パークレー氏】

国ができない国際教育は市や県が補い、大学の都市として発展してはどうか。【G.W.パークレー氏】

外国人を受け入れる雇用の場、様々な民族と一緒に暮らし、働き、意見を言い合う自然な社会のつながりが、都市の国際化には必要。【G.W.パークレー氏】

福岡は九州の国際化の窓口として、海外企業の誘致活動に取り組むべきである。アジア都市の取組みを見習うべき。【畑伴子氏】

英語標記は細かいところまで行き届いていない。【ミーナー ラッタウイシット氏】

家具付住居が見つけない。【ミーナー ラッタウイシット氏】

外国人の居住や雇用、生活をケアするワンストップサービスを設けてはどうか。【ミーナー ラッタウイシット氏】

富裕層を含めた長期滞在者の積極的な受け入れ、さらには移民の受け入れと活用などを全国に先駆けてチャレンジしてはどうか。【上野泰也氏】

外国人を交えたコミュニティづくりをしてはどうか。【上野泰也氏】

●外国語教育とインターナショナル・スクールの充実について

小中学校での多言語教育を進め、実現してみてはどうか。【星野裕志氏】

国際化人材育成のための言語教育を学校で行ってはどうか。【関幸子氏】

英語や中国語で問題なく仕事ができるビジネス環境づくり、特に多言語を話せる人材の教育と供給に取り組んではどうか。【藻谷浩介氏】

多言語の案内板の充実やアジアの言葉を話せる通訳案内士の充実・強化をしてはどうか。【松尾新吾氏】

決して流暢に話す必要はないが、一定の英語力が必要ではないか。【吉元利夫氏】

「福岡に行けばアジアや世界で活躍できる人材になる可能性が開ける」と言えるよう、インターナショナル・スクールの質や量を高めたり、APU(立命館アジア太平洋大学)以上に英語教育を徹底してやる高等教育機関を整備してはどうか。【藻谷浩介氏】

英語教育の改革は必要不可欠。外国人教師の採用増や留学生の派遣・受け入れ増に加え、企業も従業員にモチベーションやインセンティブを与えるなど、社会全体で英語力を育てていく必要がある。【ロバート・ファン氏】

大学教育では、日本語、英語、中国語、韓国語等の3～4カ国語で授業を受けられるようにしてはどうか。【古川治次氏】

海外のビジネスマンの子女の教育を任せられるインターナショナル・スクールは十分整備すべきではないか。【星野裕志氏】

外国人の定住を促進するためにも、子供を通わせたいと思えるようなレベルのインターナショナル・スクールを整備すべきではないか。もしくは、日本の学校が外国人をどんどん受け入れられればよいのでは。【ニック・サーズ氏】

廃校になった小学校の跡地を使って、市立のインターナショナル・スクールを開設してはどうか。【有川節夫氏】

海外からの人材に活躍してもらうためには、ソフト面の生活環境が必要。英語で生活できる環境、子弟の高等教育環境などを充実させては。【新海征治氏】

●留学生・海外人材の活用について

外国人受け入れをオープンにするのは難しいかもしれないが、外国人研修生や留学生を巻き込んで都市を成長させてはどうか。【星野裕志氏】

留学生などを活用し、アジアとの関係性も生かして現代アートを福岡に根付かせてはどうか。【藻谷浩介氏】

ベンチャー精神をもって海外に進出する人材を育てる必要があるし、即戦力としては留学生を最大限に活用してはどうか。【野田順康氏】

地場大手企業には5～10年のタイムスパンで、アジア留学生を採用し人材育成してほしい。【河部浩幸氏】

地理的優位性を生かして中国のトップクラス大学を卒業した優秀な人材を受け入れ、地場産業に取り込んだり、中国や韓国企業と連携する中核的人材などに活用してはどうか。【川原洋氏】

長期に貢献してもらえる外国人人材を活用するには、過去の日本企業の人事や企業統治のやり方を変えなければならない。【畑伴子氏】

若い人が海外で学ぶ機会があるといい。【マイケルJ.チャドウィック氏】

地域の事情に通じた外国人のプロと、コミュニケーションが上手な日本人がタッグを組んで情報を発信してはどうか。【ニック・サーズ氏】

福岡を出た人材がアジア諸国を回ってまた戻ってくる「福岡イニシアティブ」とも呼べる人材育成モデルをつくってはどうか。【新海征治氏】

現場レベルで、韓国などアジア諸国と福岡・九州の若い人材が交流し育っていくような環境ができないか。【河部浩幸氏】

● 企業やビジネスのアジア進出について

アジア内のビジネスを増やし、西日本との流れの結節点になることを目指したらどうか。【星野裕志氏】

水や電力、新幹線といったインフラを軸に、企業の持つノウハウの海外展開と、技術者の技術伝承を図るという点の両方から東南アジアへの企業進出をしてはどうか。【吉元利夫氏】

企業の海外進出とノウハウの移転をすることで、福岡がアジアで尊敬される都市になってはどうか。【吉元利夫氏】

九州の企業は気概を持ってアジア進出に取り組むべき。【村藤功氏】

福岡アジア特区を国際戦略特区として、法人税を15%引き下げ、傘下のアジア企業の経営者・従業員に対して長期ビザを発行してはどうか。【村藤功氏】

アジア統括会社に対して金融機関、弁護士、会計士、税理士などが専門的なサービスを提供してはどうか。【村藤功氏】

福岡証券取引所でアジアにリンクしたファンドを上場させて、地場銀行の窓口等で販売する仕組みを作ってはどうか。【村藤功氏】

地域みんなが積極的にアジア市場に着目し、アジアを受け入れてはどうか。【森地茂氏】

対アジアビジネスに関する失敗例はよく聞くが、成功話や良い事例も情報として発信してほしい。【藤野直人氏】

(移民社会になることは難しいが)アジアの中核である九州とアジアの人の流動化を進めて、国内市場を拡大させてはどうか。【馬場貞仁氏】

政府のみならずビジネス界も一緒に、アジアマーケットで通用する新ビジネスは何であるかを認識し、そのようなビジネスの雇用を生み出し、人々がそのような職業に就くための誘導をしてはどうか。【小川全夫氏】

アジアビジネスの拠点の必要性を感じる。アジアの言葉で語れる人材が集まり国内外の認知を受けた新ABC(アジアビジネスセンター)を設立してはどうか。【松尾新吾氏】

ハイテク産業、ITなどのコアとなる独自産業の企業を、東京ではなく東アジアに向けさせなければならない。【川原洋氏】

仕事をする上ではアジアではなく、欧米との作業がやりやすい。アジアを気にすることは不要になってくるのではないか。【伊藤敬生氏】

勤勉な国民が多く経済成長もしていく潜在性の高いベトナムは、福岡の取組み相手としていい。【上野泰也氏】

私は「アジアとの一体化」が、福岡経済、ひいては九州経済の位置付けをもう一度考え直すキーワードになると考えます。【宮本雄二氏】



● アジアとの交流や近接性を活かした役割について

政治的なリスクが低い東南アジア諸国との結びつきを深めてはどうか。【吉元利夫氏】

少子高齢化のようにアジア他国が同様に対処していかなければならない共通の課題について、日本(福岡)がさまざまなデータを分析してアジア共有の知的資産を作る役割を担えるのではないかと。【小林修氏】

アジアに地理的に近く、心理的な近接感にもつながっている福岡市の魅力を活用すべきではないかと。【吉元利夫氏】

東南アジア諸国連合(ASEAN)、特にタイ、インドネシア、マレーシアにもフォーカスを当ててはどうか。【古川治次氏】

アジアとの交流、コーディネート機能を担ってはどうか。【国吉澄夫氏】

「福岡に行けばアジアが分かる」といった人材と情報が集まるアジアの交流拠点を目指してはどうか。【国吉澄夫氏】

空港や港湾をもう少し整備してアジアのハブになり、アジアから福岡、福岡から欧米といった人の流れをつくれませんか。【G.W.パークレー氏】

アジアの交流拠点都市と言うわりには内向きでアジアを向いていないと感じる。九州は国内ではなくもっと海外に目を向けるべきではないかと。【藤野直人氏】

時代のニーズにあった教育により多様な人材の活躍する場を提供し、アジアの人材が九州に学びに来たり働きに来たり、集まってくるようにしてはどうか。【馬場貞仁氏】

アジア太平洋子ども会議のような人的ネットワークをどう活用していくか、議論が必要ではないかと。【馬場貞仁氏】

日本より遅れて人口構造の変化(少子高齢化)が起こる東アジアに対して、注目を集める例となってはどうか。【小川全夫氏】

福岡はアジアだけでなく、日本とアジア太平洋地域をつなぐ架け橋として機能するのがいいのではないかと。【マイケルJ.チャドウィック氏】

内向き半分、外向き半分の心構えでアジアと共に創っていく「共創都市」になってはどうか。【松尾新吾氏】

名実共にアジアの玄関口になってほしい。【G.W.パークレー氏】

「ジャパン・エンジニアリングのポータル(玄関)」が福岡にあれば、東アジアなどから人が集まるのではないかと。【川原洋氏】

福岡が今「アジア」や「リーダー都市」と言っても、生活者にとってはリアリティがないのではないかと。【伊藤敬生氏】

アジアとの向き合い方を考え、ポジションをどう捉え、どうしていきたいかを考えなくてはならない。【まつもとゆきひろ氏】

九州・福岡はアジアに向かう第三発展軸のもと、アジアと一衣帯水で進むことを常に考えておくことが必要であると思います。【長谷川裕一氏】

● つながりが強い韓国と中国との関係について

福岡が研究開発機能を持って、海外企業の中国移転を水際で阻止する役割を果たしてはどうか。【村藤功氏】

中国ビジネスに関して個別企業が個々にやるだけでなく、情報をお互いに共有し官民が一体となった「日中投資促進機構」のようなアジアビジネス推進組織の核を福岡で作ってはどうか。【国吉澄夫氏】

高校の進学先に中国の有名大学を目指せるような交流制度や仕組みをつくってはどうか。【畑伴子氏】

福岡空港から飛ぶ中国便は、全てが中国の航空会社で、日中のバランスが取れていない。【畑伴子氏】

「スポーク」部分の強化として、中国、韓国とのつながり、欧米とのつながりを持たないといけない。【長尾亜夫氏】

広州や釜山に「リトル福岡」を作り、福岡や九州に「リトル広州・リトル釜山」を作って交流を活発化してはどうか。【馬場貞仁氏】

特定の人種が集まるような地域(例:チャイナタウン)をつくる必要はないのでは。【G.W.パークレー氏】

シンガポールや韓国の都市政策から学んではどうか。【吉元利夫氏】

福岡から東京・大阪に行って韓国へ行くのではなく、福岡で頑張って認められれば韓国へ行けるようなルートができないか。【大塚ムネト氏】

シンガポールや釜山をベンチマークにするなど、海外を向いて海外の競争相手と比較することが重要。【細川昌彦氏】

インバウンド観光も含めた新中華街構想を今一度練り直してみてもどうか。【国吉澄夫氏】

● 港湾機能の強化とウォーターフロントの活用について

「高速船ビートルにより人流、ビジネスが増えた」ような事例をもっと増やしたらどうか。【星野裕志氏】

ターミナルを整備したり、荷役や通関のサービスを向上して、RORO船の航路とネットワークを充実させ付加価値を高めたらどうか。【星野裕志氏】

博多港を経由してモノが多都市間を行き来するような機能を発揮できるようになればどうか。【星野裕志氏】

博多港はアジアに向けた港湾整備、楽しい港湾整備をしてはどうか。【橋爪紳也氏】

(シドニー湾のように、)港近くにホテルや結婚式場などを作って、博多湾クルージングが名物になるような仕掛けを作ってはどうか。【河部浩幸氏】

物流のため、人流のためウォーターフロントを都心に取り込む港湾整備をしてはどうか。【長尾亜夫氏】

都市の「裏」にある地域に動線を作ったりイベントを実施して「表」にする戦略を取ってはどうか。(例えば、須崎公園、競艇場のエリア、ウォーターフロント)【西村幸夫氏】

ウォーターフロントの再整備が急務。【河部浩幸氏】

「目指せ！博多湾」:博多湾と都心部の一体的な土地利用を計画すべき。【出口敦氏】

「風の道を切り拓く」:博多湾から市街地に吹き込む風を妨げないような工夫がされた建築物を建てさせるインセンティブを設けてはどうか。【出口敦氏】

須崎埠頭は大企業の誘致を進めることで、穀物基地にもなるし、再開発することで観光スポットにもなるのではないか。【河部浩幸氏】

海と街の間を塞いでいる施設を整理し、買い物ついでに海沿いも歩けるような場所を復活させてはどうか。【藻谷浩介氏】

● 空港の機能の強化について

福岡空港の貨物便を24時間運用できる北九州空港にシフトさせ、空いたスロットを活かして旅客便の新路線開設や増便に当てたり、九州新幹線を活用した近隣県とのアクセスを充実させてはどうか。【吉元利夫氏】

福岡空港では朝アジアに飛んで夜に帰ってこられるダイヤを設定してはどうか。【藻谷浩介氏】

地下鉄は福岡空港国際線ターミナル本体まで延伸してはどうか。【山崎朗氏】

都心近郊に小型機用の空港を整備してはどうか。【山崎朗氏】

福岡空港と佐賀空港で機能を分担し、東京に向かう便は福岡空港から、別のある地域に向かう便は佐賀空港を利用するなどし、近隣の地域で連携と機能分担を図ってはどうか。【有川節夫氏】

福岡空港国際線はアクセス、サービスを改善してはどうか。【武内和彦氏】

福岡空港と佐賀空港を連携させ、効率的に運用してはどうか。【松尾新吾氏】

アメリカ直行便が復活すると嬉しい。
【G.W.パークレー氏】

福岡とのダイレクトフライトやダイレクトサーフェイスのある各都市とピンポイントでの結びつきを強化してはどうか。【野田順康氏】

私は空港に1兆円規模の投資をするべきだと思います。遅きに失してはいますが、今からでもやらないよりやったほうがいいでしょう。【長谷川裕一氏】



● 成長する産業や技術分野と強化の仕組みについて

「柔体信仰」: バイオ、ナノテク、アニメ、ゲーム、パッチャル技術、省電力技術や緑化技術など「柔らかい」技術は成長が期待できる。【鍋山徹氏】

「医」のニーズを九州全域で受け止めてはどうか。【鍋山徹氏】

水不足で節水に力を入れている福岡市は、水にかかわる技術に力を入れてはどうか。【鍋山徹氏】

小粒だが多種多様な職業が集まるまちにしたらどうか。【鍋山徹氏】

映画産業、コンテンツ産業などは有望でないか。【上野泰也氏】

得意分野を伸ばしたり、新たな得意分野を作ったり、他の都市や地域にない産業、文化や生活を生み出さないといけない。【橋爪紳也氏】

環境、医療産業、医療ツーリズムなど多種多様なサービス業が新しく生まれ育つ街にしてはどうか。【山崎朗氏】

産業の縦割り構造をなくした、地域の産業システムがあればどうか。【武内和彦氏】

「虚(ソフト)」と「実(ハード)」を組み合わせる第4次産業を興すべき。第3次産業を先進的なサイエンスに根ざした知的産業の集積と組み合わせるはどうか。【新海征治氏】

社会の階層を上から下に向かう考え方で産業をつくらないといけないのでは。つまり、どのような社会をつくっていききたいか、そのために必要なサービスは、デバイスは、製品は、技術は・・・と考えていく。【安浦寛人氏】

沖縄に優位性があるコールセンター立地を、九州に来るようにインセンティブをつけてはどうか。【ロバート・ファン氏】

福岡には大学病院など病院が多く、また中国との交流も多いので、医療は特色ある産業分野ではないか。【川原洋氏】

技術移転などの分野で本気で海外展開してはどうか。【野田順康氏】

目指すべき未来を描いて、それに向かって技術の方向性を定め、技術を活用していく発想が重要。【ムハマド・ユヌス氏】

福岡は日本の技術やソリューションを活用できるポジションにあり、日本のエンジンになることも可能。福岡が技術活用の方向性を世界に示してはどうか。【ムハマド・ユヌス氏】

情報通信技術は大衆化された道具になり、「環境」になり、社会の構造、ビジネスの構造を変えた。【安浦寛人氏】

分野を絞って戦略を立ててはどうか。フォーカス分野には積極的に助成・振興すべき。【ロバート・ファン氏】

規模は小さいが地域性があるクリエイティブな企業を集積し、雇用を確保してはどうか。【垣内恵美子氏】

● 起業やベンチャーの支援について

起業や産学連携に関しては、アメリカの取組みが参考になる部分が多いのではないか。【マイケルJ.チャドウィック氏】

図書館に起業家向けインキュベーション施設をつくり、有償開放してはどうか。【関幸子氏】

起業する人を増やすために、中小企業支援を厚くしてはどうか。【村山由香里氏】

ベンチャー支援として、エンジェルファンドがあればよいが、遊休施設を低価格で企業に賃貸してはどうか。【ロバート・ファン氏】

創造都市というのは新しいベンチャー企業が相次ぐような都市で、次世代の若い基軸となる地域の産業が何かを示し、それが地域全体に良い影響を与えるものだと市民に認識してもらいながら、短時間で特定の分野に焦点を当てて進めてはどうか。【橋爪紳也氏】

九州・アジアビジネス協議会が実施する研修プログラム「実践アジア社長塾」のようなサポートを通じて、起業家や人材を育成してはどうか。【藤野直人氏】

● 戦略的な企業誘致について

- 東京に本社を置いている事業会社のアジア統括機能を、福岡に誘致してはどうか。【村藤功氏】
- 国内企業の本社ないし本社バックアップ機能を誘致してはどうか。【藻谷浩介氏】
- 外資系企業のアジア本社や拠点を誘致し、東京以上のマーケティング機能を提供してはどうか。【小川全夫氏】
- 研究部門やデザイン部門を誘致し、知的産業の受け皿を福岡に整備してはどうか。【新海征治氏】
- アジアに関する産学連携研究施設や研修施設を誘致・開設し、海外からそこに来る高度人材の2～3割に10年前後福岡に留まってもらうような仕掛けができないか。【新海征治氏】
- 福岡には世界展開する企業が、誘致してでも、必要ではないか。(例えばシアトルのマイクロソフト、スターバックス、ボーイング)【安浦寛人氏】
- 様々な展示会を誘致し、市民が気楽に訪れて色々なよさを体感し、体験したり勉強したりできるようなコンベンションシティを目指してはどうか。【松下美紀氏】

● 大学の持つ機能や資源の活用について

- 福岡都市圏の大学を九州大学の跡地に集めて、複合型キャンパスの新しいモデルにしてはどうか。県立図書館なども移転させてはどうか。【山崎朗氏】
- 市立大学という「箱」を作る必要はないが、しっかりデータを分析した上で社会に実際役立つソフトパワーを育てる機能を持つてはどうか。【小林修氏】
- 知識基盤社会の面では、もし市立大学を持っていたら投入したであろう資金や資源を新しい仕掛けに投入してはどうか。【有川節夫氏】
- 行政が行う文化や生涯学習事業などは、大学やカルチャーセンター等に任せ、その大学等に補助をしたり、受講者にパウチャーで補助してはどうか。【関幸子氏】
- 中小の大学が個々の特長を生かしてネットワーク化した「福岡大学連合システム」を整えてはどうか。【川原洋氏】
- 九大学研都市にも百道における財団法人九州先端科学技術研究所(ISIT)のような知の呼び水となる研究施設を設け、第4次産業の核にしてはどうか。【新海征治氏】
- 単独では教育できない新しい分野で求められる人材を、他大学や研究所と共同で輩出してはどうか。【川原洋氏】
- 九大のビジネススクールや外部コンサルを使って、フォーカス領域を研究してはどうか。【ロバート・ファン氏】
- 大学間ネットワークにはアジアで関連する大学も連携させ、発展させてはどうか。【川原洋氏】
- 九州大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学などを含めた医師との連携を図って医療観光をしてはどうか。【河部浩幸氏】

●産官学民連携での取組みについて

人材が課題であるから、受け皿となる雇用と文化の面で大学、行政、産業界の連携を活用してはどうか。
【垣内恵美子氏】

大学や民間ともタッグを組んでダイナミックな動きをしてはどうか。【馬場貞仁氏】

市民が大学のことを誇りに思い、頼りにできるような都市と大学の関係が大事。【有川節夫氏】

大学での地震調査などの研究成果を都市計画に含め、新しい社会システムに反映させるのが行政の役割ではないか。【有川節夫氏】

新エネルギー、ヘルスケア、ソーシャルサービスなど有望な産業分野を、行政と大学群が連携して進めてはどうか。【川原洋氏】

大学や企業を回ってシーズを把握したり、長期的な観点からどのような分野の研究が進みそうか分析したり、技術面や輸出入面での対アジア優位性を検証して、20年単位のタイムスパンで、フォーカス分野を見極めてはどうか。【ロバート・ファン氏】

都心のまちづくりをトータルでマネジメントする組織を企業、行政、大学、市民で組成してはどうか。
【長尾亜夫氏】

産学官連携で「学びの場」、「知の拠点」づくりを推進してはどうか。【中垣量文氏】

外国を含む民間の力をもっと活用してはどうか。
【森地茂氏】

IT分野における産学連携では、教育・研究と企業活動を連携した長期的なインターンシップ制度を整えてはどうか。【川原洋氏】

都市政策の一環としてコンテンツビジネスを育てるのであれば、明確なビジョンを持ち、本気の取組みを行うことで、街全体の盛り上がりにもつながっていくのだと思います。【日野晃博氏】

安心安全なまちづくりは、行政や財界のリーダーが市民と一緒に取組んでいかねばならない。
【河部浩幸氏】

定年退職した市民には大学に戻ってジェロントロジー（加齢学）やまちづくりを学び、新たに地域のために働いたりできるように、大学も企業もユニバーサルデザイン（UD）に取り組んではどうか。【関根千佳氏】

改革が出来る強いリーダーシップや専門的に研究する機関、そのベースになる市民の意識は欠かせない。産官学と市民が連携して努力を続けるべき。【河部浩幸氏】

「何をすべきか」をしっかりと考え、それを考える市職員だけでなく民の力を借り、多くの人を巻き込む専門チームを立ち上げてはどうか。【古川洽次氏】

●九州全体といった、より広域的な視点について

生産機能、観光拠点など福岡市単独では担えない機能は、広域の発想を政策体系に入れていってはどうか。

【森地茂氏】

福岡市の繁栄を九州全体の発展につなげる仕組みづくりを考えてはどうか。【吉元利夫氏】

自治体ごとの企業誘致ではなく広域一体化を進めてはどうか。【細川昌彦氏】

グローバル市場、東アジア、その中の九州の役割を考えてから福岡の位置づけを考えてはどうか。

【細川昌彦氏】

北九州市のスマートシティプロジェクトに面的な広がりを持たせてはどうか。福岡市の役割があるはず。

【細川昌彦氏】

九州の市町村の水道事業は水平統合して九州単位で広域化し、民営化してはどうか。【村藤功氏】

北九州のようなモノづくりが強い地域のメーカーが技術革新を進めたり、福岡市のような大学や研究機関が多いまちが人材を供給したりする、それぞれの地域に特色ある取組みで九州一丸となって海外と競争してはどうか。【馬場貞仁氏】

広域の観点から北九州空港、佐賀空港、熊本空港、長崎空港などをどう活用して広域都市圏および九州全体の成長につなげるか考えてはどうか。【山崎朗氏】

福岡から北九州にかけての港湾で物流・流通機能を整備しつつ、鉄道もフェリーも活用しながら、近隣地域と一体となって対応し、その中でも全体をリードしてはどうか。【有川節夫氏】

福岡市は北九州市に頑張ってもらい、都市圏全体として成長していく策を取るほうが、結局は福岡のためになるのではないか。【家田仁氏】

海外との競争で脅威にさらされる福岡は、九州7県プラス山口県ぐらいのエリアで都市圏にならないとダメではないか。【家田仁氏】

福岡市には工業を担う地域がないが、その役割は北九州市が担えば良い。福岡は覇権主義を唱えるのではなく、各地域のコーディネーターになればどうか。【家田仁氏】

日本は中央官庁を中心とした集権的な規制が強い。オール九州を基本に地域の特色を打ち出し、活性化させては。【中垣量文氏】

「アジアに向けた窓口」をキーワードに九州全体のバランスを取ることを考えるべき。【中垣量文氏】

総合特区などと組み合わせて福岡が九州のリーダーシップを取るべき。【河部浩幸氏】

一地域のことを考えるにあたって、国家の形をどのように変えていくべきかの考えを持つ必要があるのです。【長谷川裕一氏】

● 高い意識を持った柔軟な行政運営について

海外エリートの留学生や行政職員を招き、市長と互いに顔が見える人事交流をしてはどうか。【関幸子氏】

変革には行政の仕組みや組織を変える必要もある。【武内和彦氏】

行政は前例主義でなく、周囲が市長をサポートし、変革をどんどん進めるべき。【古川治次氏】

福岡市と北九州市の二つの政令指定都市は、それぞれの行政区域内で物事を考えていてはもったいない。【馬場貞仁氏】

高齢化に対して行政は各局はこれまでと違った目を向けて、総合的な取り組みが必要ではないか。【小川全夫氏】

福岡市がアジアの中心、情報のハブになるには情報通信技術（ICT）を使いこなす必要がある。ICTとユニバーサルデザイン（UD）の推進における行政の役割は大きく、それらを当たり前のもものと認識すべき。【関根千佳氏】

福岡の将来はこうあるべきだという「十年の計」を持って、行政には揺るぎなくリードしてほしい。【川原洋氏】

行政は多様性や柔軟性のある施策展開をすべき。【松下美紀氏】

市民には当事者意識を持たせ、福岡市も職員の教育に時間とお金をかけてはどうか。【関幸子氏】

法律や制度が障害になる場合も諦めずに動かしてほしい。【関幸子氏】

職員の研修や教育にはお金を惜しまず、国内外の現地視察や民間との交流を盛んにすることで、職員の知見を広め勉強すべき。【古川治次氏】

グローバルな視野を持って縦割りではない複合的に事業を進めてはどうか。【細川昌彦氏】

日本人の発想の原点は極めてドメスティック。アジアのリーダー都市になりたいなら、海外都市と比較すべき。【武内和彦氏】

福岡には危機感、ロマン、強力なリーダーシップが不足している。【麻生泰氏】

市役所内で外国人がもっと働いている状況にしてはどうか。【麻生泰氏】

ビジョンを作るのではなく、目標数値を設定し、計画の実現を“約束”する体制にしてほしい。【麻生泰氏】

日本の極端な中央集権構造は是正が必要。【ロバート・ファン氏】

日本の法的システムは国際化が必要。【ロバート・ファン氏】

国に過度に依存せず自力で生き延びる発想を持ち、「ありたい未来」を作るべき。【鍋山徹氏】

自ら「まちのためにやりたい！」と手を上げる人や取組みに支援をすべき。【松下美紀氏】

ソフト事業には、トップの明確なリーダーシップと民意のコンセンサスを得て、ニーズを顕在化させていくことが重要ではないか。【垣内恵美子氏】

国際競争に勝つには本気でビジネスできる人材が増えないといけない。行政は「営業の意識を持つ」という全体の意識改革が必要。【野田順康氏】

行政は9割は堅く進めるとしても、1割はリスクを取って色々な利（利潤）を追求してはどうか。【古川治次氏】

まず行政と民間が理念を共有し、意識的なプロジェクトをどう起こしていくのが重要です。【有馬裕之氏】

男女共同参画の指標を細かく決め、入札の点数を大幅加点してはどうか。【村山由香里氏】

ホール施設なども行政が自前で持たず、文化・芸術のプロに任せてはどうか。【関幸子氏】

図書館の玄関先で野菜等の食品を販売し、レシピ本の貸出や販売とリンクさせてはどうか。【関幸子氏】

PDCAのPとCの段階で多様な市民を巻き込み、市民の声を収集しながら改善を進めなければならない。【関根千佳氏】

福岡市と県が良い関係を作り、周辺の市町村も引っ張っていくべき。【有川節夫氏】

(2)有識者別

(インタビュー日順、肩書きはインタビュー時点)

インタビュー日	有識者	メッセージ
2011.6.21	九州大学経済学研究院 教授 星野裕志氏	「内なる国際化」を進め、 コスモポリタンシティを目指して欲しい
2011.6.22	株式会社九州食品流通科学研究所 社長 小林修氏	分析人材のサプライチェーンが 作り込まれた都市を目指して欲しい
2011.6.24	東京大学大学院 教授 西村幸夫氏	都心の軸を作りこむことで魅力を高め、 アジアのモデル都市を目指して欲しい
2011.6.27	株式会社富士通九州システムズ 事業推進本部 本部長代理 吉元利夫氏	東南アジアともつながりを深め、 九州の発展を牽引する都市になって欲しい
2011.6.28	株式会社日本政策投資銀行 産業調査部 チーフエコノミスト 鍋山徹氏	日本本来の良さを復興させる先鞭となる、 灯台のような都市になって欲しい
2011.7.5	みずほ証券株式会社 チーフマーケットエコノミスト 上野泰也氏	厳しい経済展望の中で、 海外の力を活用して突破する都市になって欲しい
2011.7.5	中部大学中部高等学術研究所 教授 細川昌彦氏	アジア市場を見据えた広域一体化戦略のもとで、 機能を発揮する都市になって欲しい
2011.7.5	九州大学ビジネススクール 教授 村藤功氏	アジア統括機能を集積させ、 日本で一番成長する幸せな都市になって欲しい
2011.7.6	「FUKUOKA NOW」CEO 兼 編集長 ニック・サーズ氏	生活や情報の質の向上にチャレンジし、 インテリジェンスのある都市になって欲しい
2011.7.7	九州・アジアビジネス連携協議会 理事・事務局長 国吉澄夫氏	福岡に行けばアジアが分かる、そんな情報と 人材が集まる拠点都市を目指して欲しい
2011.7.7	株式会社ジーエータップ 代表取締役社長 定村俊満氏	世界一暮らしやすいまち、優しいまち、 幸せなまちになって欲しい

インタビュー日	有 識 者	メッセージ
2011.7.8	株式会社日本政策投資銀行 地域計画部 地域振興グループ参事役 藻谷浩介氏	急速に進む人口成熟に対処し、 コンパクトシティな国際業務中枢都市を 目指して欲しい
2011.7.11	政策研究大学院大学 特別教授 森地茂氏	みんなが地域のことを考える、 地域力が結集された都市を目指して欲しい
2011.7.11	政策研究大学院大学 文化政策プログラムディレクター 教授 垣内恵美子氏	市民のサポートを引き出し、 豊かな文化力ある都市を目指して欲しい
2011.7.12	株式会社クロスエッジ 代表取締役社長 藤野直人氏	福岡が好きで、特にこれといった 不満ありません。ただ、本当の意味で アジアに開かれた都市になるといいですけど
2011.7.13	トヨタ自動車九州株式会社 専務取締役 馬場貞仁氏	アジアの中核都市として、九州全体を引っばる リーダー都市を目指して欲しい
2011.7.14	熊本学園大学社会福祉学部 教授 小川全夫氏	高齢者はもちろん、市民も交流人口も楽しく 満足できるような都市を目指して欲しい
2011.7.15	大阪府立大学 21世紀科学研究機構 教授 橋爪紳也氏	福岡独自の魅力を作って、世界中の人々が あこがれる都市を目指して欲しい
2011.7.15	中央大学大学院経済学研究科 教授 山崎朗氏	先導的イノベーションと 長期的リノベーションの下、 若さと緑溢れる都市を目指して欲しい
2011.7.19	国連人間居住計画福岡本部 本部長 野田順康氏	本気で海外とビジネスする気風を醸成し、 創造都市、集客都市を目指して欲しい
2011.7.19	福岡アメリカン・センター 館長 マイケル J. チャドウィック氏	アジア太平洋と日本の架け橋として 機能する都市になって欲しい
2011.7.19	九州大学 総長 有川節夫氏	都市と大学が良い関係を築きつつ、 ともに発展するようなまちになってほしい
2011.7.19	劇団「ギンギラ太陽's」 主宰 大塚ムネト氏	市民全員がまちを知り、 まちを語るような都市を目指して欲しい

インタビュー日	有識者	メッセージ
2011.7.20	株式会社ローカルファースト研究所 代表取締役 関幸子氏	新たな公の育成や行政内部の改革の下、 地域戦略を推進する都市を目指して欲しい
2011.7.20	株式会社ユーディット 代表取締役 関根千佳氏	日本で一番ユニバーサルデザインが進んだ、 アジアの中心都市になって欲しい
2011.7.21	東京大学大学院工学系研究科 教授 家田仁氏	地域の多様性を大切にし、 都市圏の成長をコーディネートしていく 都市を目指して欲しい
2011.7.21	東京大学サステナビリティ学 連携研究機構 副機構長 武内和彦氏	口先だけではなく、 真正面からサステナビリティと アジアに取り組む都市を目指して欲しい
2011.7.22	財団法人九州先端科学技術研究所 所長 新海征治氏	知的人材が集積することで、 新たな産業が次々と生まれる都市を目指して欲しい
2011.7.22	社団法人九州経済連合会 会長 松尾新吾氏	九州全体の中心としてアジアに向い合う 「共創都市」を目指して欲しい
2011.7.23	グラミン銀行創設者 九州大学名誉教授 ムハマド・ユヌス氏	予測不能な未来だからこそ、 目指したい未来を描いて、誇りを持って進むべき
2011.7.26	全教研グループインフィニットマインド株式会社 代表取締役社長 中垣量文氏	新たな価値観を共有して 次世代へつなげる都市を目指して欲しい
2011.7.26	九州大学 理事 副学長 安浦寛人氏	生活空間の中で、 未来社会に向けた社会実験の場を 提供できる都市を目指して欲しい
2011.7.27	麻生ラファージュセメント株式会社 取締役社長(CEO) 麻生泰氏	危機感の下、グローバルシチズンを育て、 高齢者が参加する都市を目指して欲しい
2011.7.27	九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 田上健一氏	住まいと働く場が融合調和し、 個性を放つ魅力ある都市を目指して欲しい
2011.7.28	西南学院大学 学長 G.W.バークレー氏	多様な民族が一緒に暮らし、働き、 意見を言い合える、 魅力ある国際都市を目指して欲しい

インタビュー日	有 識 者	メッセージ
2011.7.28	サイバー大学IT総合学部長 教授 川原 洋氏	大学間連携を軸に、付加価値の高い新産業と 新人材を育める都市を目指して欲しい
2011.7.28	米シネックスグループ創設者 ロバート・ファン氏	グローバル化の変化に対応できる、 戦略が明確な都市を目指して欲しい
2011.7.29	上海市对外服务有限公司 日本部部长 畑伴子氏	個人レベルのアジア交流が盛んで、 ビジネス感覚のある都市を目指して欲しい
2011.8.1	株式会社電通九州 クリエーティブディレクション局 アートディレクター 伊藤 敬生氏	エンターテインメントという良さをもっと伸ばして、 日本のために頑張る都市を目指して欲しい
2011.8.2	株式会社ネットワーク応用通信研究所 フェロー まつもとゆきひろ氏	人々が満足する生活とやりがい 提示できる都市を目指して欲しい
2011.8.3	福岡商工会議所 会頭 河部 浩幸氏	九州が一つになることをリードする、 日本第二の都市を目指して欲しい
2011.8.3	西日本鉄道株式会社 取締役会長 長尾 亜夫氏	定住、滞在、回遊人口が多い、存在感のある コンパクト・ハブシティを目指して欲しい
2011.8.3	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 出口 敦氏	グリーンでコンパクトな街の魅力を磨き、 チャレンジし続ける都市を目指してほしい
2011.8.4	タイ国政府貿易センター福岡 所長 ミーナー ラッタウイシット氏	各国の人々にとって 住みやすい都市を目指して欲しい
2011.8.4	株式会社岡野 代表取締役 岡野 博一氏	伝統文化を再編集した福岡ブランドを アジアに発信できる都市を目指して欲しい
2011.8.5	株式会社松下美紀照明設計事務所 代表取締役 松下 美紀氏	市民も行政も美意識を高め、 夜の景観や海辺が綺麗な都市を目指して欲しい
2011.8.9	福岡県男女共同参画センターあすばる 館長 村山 由香里氏	「女性をひきつける都市ふくおか」から、 「日本でいちばん女性が活躍する都市ふくおか」へ

インタビュー日	有識者	メッセージ
2011.8.9	株式会社レベルファイブ 代表取締役社長／CEO 日野晃博氏	特徴のあるエリアを増やし、 機能が分散された都市へ
2011.8.12	郵便局株式会社 代表取締役会長 (CEO) 古川洽次氏	常に変革をする、 アジアを向いた都市を目指して欲しい
2011.8.19	Hiroyuki Arima + Urban Fourth 代表 建築家 有馬裕之氏	福岡のありのままの姿と未来への独創性を、 世界につなげていく都市を目指して欲しい
2011.8.26	株式会社はせがわ 代表取締役会長 長谷川裕一氏	九州と日本のために、アジアに向けた 国際軸を作り込む都市を目指して欲しい
2011.9.6	外務省顧問 宮本雄二氏	市民参画で快適なまちづくりを進め、 外資や規制を活用し発展する都市を目指して欲しい
2011.8.30	学校法人立命館 副総長 モンテ・カセム氏	伝統・文化を活かし、多様な価値を受け入れ、 創造性を応援する都市を目指して欲しい
2011.8.31	伊藤滋都市計画事務所 主宰 伊藤滋氏	多様な中小企業を育て、アジア人が 日本に同化して暮らす都市を目指して欲しい
2011.11.22	中村学園大学 教育学部 教授 占部賢志氏	歴史と道徳を重んじ、地域と家庭の両輪で 日本一の人材輩出都市を目指してほしい
2011.11.24	九州産業大学 商学部長 教授 千相哲氏	アジア観光圏をつくり、 アジア・九州の拠点都市を目指して欲しい
2011.11.28	東京大学大学院情報学環 教授 姜尚中氏	九州内機能分担の音頭を取り、九州・アジアの ハブ機能を有する都市を目指してほしい
2011.12.13	福岡経済同友会 代表幹事 石原進氏	地理的優位性と総合特区を礎に、 グローバルに飛躍するまちを目指して欲しい